■街のスリに一瞬にしてヤラれまくるヤエユイムサシ

がんばれゴエモンシリーズのスリ。
彼はヤエ、ユイのようなエリート忍者が相手であろうと、
接触するだけで金銭を盗むという凄まじい窃盗技術を持つ。
もし彼が１８禁作品御用達の能力『淫気』を持ったとしたら……？
これは、そんなスリ強化系ＩＦ物語である。

御公儀くノ一・ユイは今日もお上の命により情報収集に励んでいた。
とある町にて、知り合いの婦警や情報屋から話を聞いていくユイ。
だが、ただでさえ最上位の容姿な上、露出度の高い服装とあってあらゆる男の目を惹いていた。
そして彼女を見る男の中には、腕利きのスリや泥棒も混ざっていた……

「さ～て、もうここでは充分聞き込み終えたわね。じゃ、そろそろ美少年でも漁りに……」
がしっ♥　もみもみもみもみぃっ♥
「っっ？！♥」
（な♥　何よ今の……♥　す、スリ……？♥）

自分好みの美少年のことを考え、気を抜いた一瞬。ユイは突然胸に奔る刺激で硬直し、声ならぬ声を上げてしまう。
少年がすれ違いざまにユイの衣服に手を突っ込んで財布を盗み、ついでに豊満な胸乳を揉みしだいたのだ。

（油断してたとはいえ、このアタシにスリと痴漢までして……
しかも……き、気持ち良くしてくれるなんて……♥）

少年はほんの僅かな間にスリを働き、おまけに痴漢までこなす。
しかもくノ一として房中術――性戯を磨き、性的な刺激には相当の耐性を持つユイを強引に発情させる。
明らかに只者ではない……おそらく妖魔、それも淫魔の力を得た者だろう。
ユイは妖魔討伐という本業、そして仕返しのため、少年を追って人気のない路地裏に駆け込む。

（このユイ様を本気にさせたこと、後悔させてあげるわ痴漢少年くんっ♪）

――……
――――……

もみっ♥♥　がしぃっ♥♥　くりくりくりくりっ♥♥
ぐちゅぐちゅぐちゅぐちゅぅぅぅぅぅぅっ♥♥
「ひっ♥♥♥　あ♥♥♥　ダメ♥♥♥　イグっ……♥♥♥」

気を引き締め、今度は返り討ちにしてやろうと意気込んでいたユイ。
しかし目を凝らしてなお捉えきれない早業の前には成す術もなく……
胸、乳首、秘部まで徹底的に愛撫され、瞬く間に絶頂させられてしまう。
牝の貌を晒し、完全に無防備となったユイ。
しかし痴漢少年は有り金を全て奪ったからか、それともユイがあまりに性的に弱すぎて取るに足らない相手と見たからか、
それ以上は何もせず去っていくのだった……

◆

「スリか……そんなもの現れようなら、私が叩き斬ってくれる」

ふらりと寄った町にて、過去に世話になった者からスリの噂を聞いた女剣豪ムサシ。
気を付けるよう警告されるが、盗人風情への大袈裟な評価を一笑に付す。
というのも、ムサシは妖魔と化して人外の強さを得た経験がある。
今でも人外の強さを持つことに変わりはなく、スリだろうが何だろうが、
男が不意に触れれば即座に斬り捌く自信がある。
実際、ムサシは性格や剣の腕にそぐわない美貌と発育した肉体を持つ。
これ目当てに近付いた男たちを、何度となく斬ってきたのだ。
ゆえに自信と自負があったのだが……

（しかし妙に人が多いな……これならいつスリが出てもおかしく……）
もみもみもみもみぃっ♥
「おほっ♥♥　なっ……貴様、待てっ……♥♥」
（何だ今のはっ♥　こ、この私に♥　気配を気取らせず……っ♥）

スリが出るのも納得の賑わい。
それに気を取られた一瞬、何者かがムサシの爆乳を揉みしだいた。
見下していたスリ如きに痴漢され、あろうことか強烈な快楽まで与えられた上に
しっかり有り金を盗まれる。
しかもスリを働いた者を見てみれば、自分よりも年下であろう少年ではないか。
女として、剣士として、あのような者にいいようにされて、許せるわけがない。
ムサシはむっちりとした足腰を震えさせながらも、報復のためにスリ少年を追い……

――……
――――……

もみもみもみもみもみもみっ♥♥　くりっ♥♥　ぎゅりぃぃぃぃっ♥♥
「んお♥♥♥　お♥♥♥　お……っっっ♥♥♥」

隙だらけの背中に向けて斬りかかろうとした時。
少年は最初からムサシの動きを読んでいたかのような流れる動きを見せ、
再び背後をとるや先ほどの痴漢時以上の速度で
ムサシの乳尻、秘部の牝肉を揉みしだき、乳首と陰核を摘まみ上げた。
淫気以上に巧みな少年の技量に、性感が未発達なムサシもあえなく絶頂してしまう。
しかも、その姿は普段のセーラー服のまま。
つまり、戦闘形態に変化する暇すらなかったのだ。

戦闘にすら入ることを許さないスリの神業に完全敗北したムサシ。
金銭だけでなく携帯食料などを奪われても碌に後を追うことすらできず、
その場で絶頂余韻に震えるしかないのだった……

（あ♥♥♥　あの小僧……許さん……♥♥♥　次……こそ……っっ♥♥♥）

◆三人揃って路地裏で

「え？　じゃぁ、ヤエさんも……ムサシまで？」
「……ええ……」
「……」

同じ町に来ていたヤエ、ムサシと合流したユイ。
聞けば二人もスリ少年の被害に遭ったらしく、
ここは三人でエロガキをとっ捕まえよう！　ということになった。

「あいつのことだから、また女性たちを狙ってるはずよ！」
「そうね。これ以上被害者が増えない内に、早く捕まえなきゃ」
「今度という今度こそ、奴を叩き斬ってくれる……！」

ユイたちは一度ならず二度も被害に遭っており、ゆえに相手の行動も読めて来ている。
早々に予想が的中して居場所を突き止め、女性たちに痴漢とスリを実行したところを確認する。

「……まずはアタシが囮になるわ。その隙に……」
「私とムサシさんが捕まえるわ。同時にかかれば……」
「ああ……次こそ奴の最後だ」

人だかりに混ざり、スリ少年へと近付いていく。
ユイがケータイを見ながらあくびをする、という隙だらけの状態を演じ、
敢えて被害に遭うことで少年の隙を作り、そこにヤエとムサシが二人掛かりで取り押さえる、という算段だ。
ヤエとムサシがユイから少し離れた位置で目を凝らし、
ユイも隙を演出しつつ内心で警戒し……

◆ユイｖｓ集団スリ

あまりに屈辱的な姿を晒し、ヤエとムサシはあの町から引き揚げた。
しかしユイは諦めきれず、単独でスリ捕獲のための捜査を行っていた。

(……あんなことされて……！　引き下がれるわけないじゃない……！)

ユイは受けた屈辱を思い出し、拳を震わせ……

(……あんな……こと……っっっ♥♥)

次いで、下腹部も痙攣させる。

ユイはくノ一としての技でも、特に房中術を磨いていた。
ゆえに女として性的に屈服したことが……そして望まぬ快楽を与えられたことが、
どうしても許せなかったのだ。

(今度こそ……♥　今度という今度こそ……っっ♥♥)

怒りと恨み、快感への屈辱と期待。そのことに思考が囚われる内、
気付けば大勢が並ぶ行列の中に並んでいた。
極端な跳躍などをしない限り、ほぼ身動きができない状況。
いかにもスリが出そうなシチュエーションだ、と思った時。

(……こういう、人が周りにいるとこで、平気で触ってくるのよね……)
もみっ♥
「っ……♥♥」
(ほ、ホントにキた……っっ♥♥)

真後ろの少年が、片手でユイの胸を触り、快楽を与えると同時に
もう片方の手で金を盗む。
快楽に震えながら、ユイは少年が盗んだ額を見ると……たったの１Ｇであった。

珍しく盗みに失敗したか、それともユイの身体はたった１Ｇという暗喩なのか。
……はたまた、有り金を奪い切るまでこのペースでじわじわと嬲るつもりなのか。

(……わざと……なの？　なら、どういうつもりで……)
もみっ♥　ぶるんっ♥
「やんっ♥　ちょっと……っ♥♥」

わざわざ１Ｇだけ盗むことを不自然に思う間もなく、新たな痴漢と盗難の被害に遭う。
今回、スリの少年は一人ではなかった。
左右にいる少年も仲間であり、やはり驚くべき技術でユイの女体を触りつつ金を奪う。
今回奪われたのは左右で２Ｇ。一度痴漢するごとに１Ｇ盗む、ということだろうか。

（何なのよ、こいつら……♥♥　アタシを使って……遊んでるっていうの……？♥）

痴漢とスリの技術を活かし、ゲームのようにユイを甚振っているのか。
本来ならば許すことのできない犯罪だが、
ユイは怒り以上に心地よいゾクゾクとした感覚が子宮から脳天に駆け上がっていくのを覚えてしまう。

ぷにっ♥　ぎゅむぅっ♥　もみっ……ぷるんっ♥
「はっ♥♥　あ♥♥　やめ……なさい♥♥　んひっ……っっ♥♥」

更に触られ、そのたびに１Ｇ、２Ｇと奪われていく。
胸、尻、秘部と次々と責められるが、盗む金額相応にしか淫気を使っていないのか、
与えられる快楽は強烈でありながら、どこか物足りなさを感じさせる。
やろうと思えばいつでも絶頂させられる……ユイの方も無意識に期待している中、
さながら寸止め責めのように絶妙な度合いの快感に苛まれる。

「あ♥♥　いやんっ♥♥　あ……っ♥♥」

一つ一つは極端な責めや被害ではないためか、
焦らすような責めに精神が参ったか……
ユイは次第に痴漢行為に慣れていき、自然と房中術の鍛錬で覚えた
男に甘える音色を奏で、媚びるように艶めかしく肢体をくねらせていく。

（アタシ♥♥　何ヤッてんのよ……♥♥　こいつら……捕まえなきゃ♥♥　いけないのに……っっ♥♥）

すっかり勃起した乳首を弄られ、物欲しげに脈打つ陰核を擦られ、
流石に絶頂が近付いてくる。
残金もいよいよ尽きかけている。
スリ少年たちもそれを察したか、一気にユイへの行為を加速させる。

体験版はここまでです。続きは製品版で！